

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学部
評価基準 7	教育研究等環境
点検・評価項目(4)	7-4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
	ティーチング・アシスタント (TA)・リサーチ・アシスタント (RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備
	研究会、セミナー、シンポジウム等の開催および学術雑誌の刊行状況
点検・評価項目(6)	7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

7-4	学部として、両学科とも、学科に1名の研究補助員がおり、任期は1年以内で雇用期間の通算が3年を超えない条件のもと、学科の業務と教員の教育・研究を補佐する役割を担っている。研究補助員は、学科事務室で講義室や演習室などの施設使用の調整、窓口での学生指導を行っている。また、TA（教育補助員）は実験系演習科目の授業準備および支援を行っている。健康科学科では、年度により大学院生の在籍者数が異なるため変動があるが、3～6名程度である。 毎年、学部による「スポーツ・健康科学会」大会を開催し、講演会を実施している。また、年度末に学会誌を発行し、学会活動や卒業論文要旨等を紹介している。
7-6	学部として、教育研究等環境の適切性について、年度ごとに自己点検部局委員会、FD委員会において検証を行い、責任主体・権限、手続きを明確にしている。

【効果が上がっている事項】

7-4	スポーツ科学科は、実験系演習科目の授業準備における教員の負担が軽減されている。
7-6	

【改善すべき事項】

7-4	健康科学科では、実習助手の人数に限られており、一部の実習助手に負担が偏らないようカリキュラム編成やTA、RA、技術スタッフの支援を強化することが望ましい。
7-6	

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

学校法人大東文化学園研究補助員就業規則、スポーツ・健康科学会 学会誌 2012 年度
--

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	7-4 研究補助員およびTA（教育補助員）制度の運用について検証し、教育研究等を効果的に支援する環境や条件を整備する。	左記の内容が学科協議会、学部教授会等で提言されている。					
14 年度 目標	7-6 教育研究等環境の適切性に関する検証について検討を始める。	左記の検討内容が学科協議会、学部教授会等で報告されている。	A				